

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像 1/30 現在

「夢創造」の教育力と確かな進路実現力を持つリーディング工科高校

創造力、表現力、活用能力を持った、ものづくりリーダーを育成する。

活みなぎる学校生活を送る中で、自立心やたくましく生きる力を持つ生徒を育成する。

そのために学校は、生徒一人ひとりを大切にする教育活動と、規律ある安全・安心の学校づくりを進めるとともに、生徒が主体的に進路選択できるようキャリア教育を計画的に行い、進路実現を図る。また、地域の機関や企業等との連携を深め、地域に愛され、保護者や小中学校の信託に応えられる学校づくりに努める。

2 中期的目標(H23-)

創立 100 周年を目標に、めざす学校像の実現に向け以下の取組を行う。

1 確かな学力への取組み

- (1) 基礎・基本の定着を図り、表現力や活用能力が身に付けられるよう、授業内容の充実を図るとともに、職業資格（検定）の取得、課題研究授業の充実、部活動、学校行事、生徒自治会活動などの活性化を推進し、課題解決能力などたくましく生きる力を養い「大阪の産業をリードできる人材の育成」を図る。また、3S（整理・整頓・清掃）活動を進め、問題発見、問題解決する力を養う。

※部活動については生徒自治会と顧問を中心に活性化し、平成 25 年には部活動加入率 60%以上にする。

※公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組み「授業中、集中できている」を 60%以上にする。

※専門教育をさらに充実・活性化して、資格検定の取得の向上を図る。

※家庭学習の習慣を各教科で検討し、家庭学習時間 1 時間以上を 60%以上にする。

- (2) 新学習指導要領への改訂に伴い、学校課題を「将来構想委員会」等で検討し改善に向けた教育活動を進める。専門性の深化と高等教育機関への接続に対応した教育内容が図れるよう編成作業を推進する。

※平成 26 年度に進学対応クラスの設置に向けプロジェクトチームを中心に具体的なプランを策定する。

※全専門系で地域産業と大学との連携授業を取り入れる。

2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ

- (1) 社会人として自立し、自らの人生設計を行う力を醸成するため、「実践的キャリア・職業教育支援事業」を活用することで 3 年間を通じた系統的なキャリア教育・進路指導を計画的に進め、就職・進学ともに、生徒の進路実現 100%をめざす。

- (2) ロングホームルーム等を活用し人権尊重の教育を進め、自己と他者を大切に、相手の立場を理解して行動する心を育む。授業を大切に、規律ある学校生活ができるよう教員全員で指導に当たる。また、留年者、中退者の未然防止に努める。とともに「いじめ」・「体罰」の無い学校作りを推進する。

※首席を含め各学年団と分掌・教科の連携をより充実し計画的に推進することで留年者・中退者を 2%以下にする。

※生活指導部を中心に全教職員で生徒の「基本的な生活習慣の確立」にあたる。「いじめ」の発生を防止、懲戒事案の減少をめざす。

3 地域連携と安全で安心な学校作り

- (1) 「今宮工科高校地域コンソーシアム」を活用し、地域産業との連携による企業実習・インターンシップなどキャリア教育・職業教育の充実を図るとともに、専門高校としての特色ある教育内容を、広く府民に情報発信し、生徒が誇りをもって学べる環境づくりを進める。

- (2) 生徒の学習環境の改善に向けた学校施設・設備の整備を計画的に進める。具体には、学校周辺の環境改善、教室・クラブ部室・更衣室の整備及び学年職員室の整備等をめざす。

4 学校運営体制の確立と教職員の教育力向上

- (1) 校内の全内規を再検証して、現在の学校運営に即した内容に再構築する。

- (2) 教員相互が話し合える環境づくりに努めるとともに、豊かな経験を持つ教員の教育技術を、経験の少ない教員に伝えられるよう、研修や研究授業を進めることで、授業力のある教員の育成を図る。

- (3) 指導教諭を中心に各教科において計画的・実践的に研修計画を立て OJT を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「学校へ行くのが楽しい」</td> <td>64.4%</td> <td>72.1%</td> </tr> <tr> <td>②「学校生活について先生の指導は、納得できる」</td> <td>49.0%</td> <td>62.6%</td> </tr> <tr> <td>③「先生は協力して生徒指導に当たっている」</td> <td>53.6%</td> <td>74.1%</td> </tr> <tr> <td>④「先生は、責任を持って授業など仕事にあたっている」</td> <td>56.8%</td> <td>78.8%</td> </tr> <tr> <td>⑤「先生は生徒に親身になって対応してくれる」</td> <td>53.8%</td> <td>69.6%</td> </tr> <tr> <td>⑥「平日の授業以外の学習時間 ほとんど無い」</td> <td>65.3%</td> <td>68.7%</td> </tr> <tr> <td>⑦「学校からの進路に関する情報が豊富」</td> <td>66.7%</td> <td>83.8%</td> </tr> <tr> <td>⑧「校内では、挨拶がかわされている」</td> <td>67.1%</td> <td>79.9%</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	①「学校へ行くのが楽しい」	64.4%	72.1%	②「学校生活について先生の指導は、納得できる」	49.0%	62.6%	③「先生は協力して生徒指導に当たっている」	53.6%	74.1%	④「先生は、責任を持って授業など仕事にあたっている」	56.8%	78.8%	⑤「先生は生徒に親身になって対応してくれる」	53.8%	69.6%	⑥「平日の授業以外の学習時間 ほとんど無い」	65.3%	68.7%	⑦「学校からの進路に関する情報が豊富」	66.7%	83.8%	⑧「校内では、挨拶がかわされている」	67.1%	79.9%	<p>第 1 回 (7/1)</p> <p>○平成 25 年度の教育方針と工科高校の重点化について</p> <p>・技術者の育成には、工高で基礎をしっかりと教え、就職にも進学にも対応してもらいたい。</p> <p>○平成 25 年度の入学選抜状況について</p> <p>・普通高校の前期選抜は実業高校への志願者減少につながっているが、減少期を迎え厳しい状況とは思うが、PR に工夫をしてぜひ頑張ってもらいたい。</p> <p>○平成 24 年度の学校教育自己診断について</p> <p>・大きな改善がみられる。これに止まることなく全職員で前進してもらいたい。</p> <p>第 2 回 (1/20)</p> <p>○就職状況について</p> <p>・求人数は増加傾向にあるが、一次内定率は上昇していない。基礎学力をしっかりと身に付けて就職に対する考えをしっかりと持った生徒を育成してもらいたい。</p> <p>○大学進学専科について</p> <p>・大学進学専科に入学して途中で就職に変更できるのか心配である。</p> <p>・総合募集の生徒と指定校推薦で競うことになった時の基準を明確にってもらいたい。</p> <p>○学校見学会説明会等の中学生の参加数 763 名と志願者との関係</p> <p>・見学会への参加数は、昨年より 2 割増しであるが志願者数に繋がっていない。</p> <p>第 3 回 (3/3)</p>
	H23	H24																										
①「学校へ行くのが楽しい」	64.4%	72.1%																										
②「学校生活について先生の指導は、納得できる」	49.0%	62.6%																										
③「先生は協力して生徒指導に当たっている」	53.6%	74.1%																										
④「先生は、責任を持って授業など仕事にあたっている」	56.8%	78.8%																										
⑤「先生は生徒に親身になって対応してくれる」	53.8%	69.6%																										
⑥「平日の授業以外の学習時間 ほとんど無い」	65.3%	68.7%																										
⑦「学校からの進路に関する情報が豊富」	66.7%	83.8%																										
⑧「校内では、挨拶がかわされている」	67.1%	79.9%																										
<p>【方針と対策】</p> <p>学校教育自己診断は、生徒・保護者・教職員の意識を把握・比較し課題を明確し PDCA サイクルで改善していくための重要なツールである。昨年との比較でもわかるように大きな成果を得ることができた。上記の項目は、昨年度、特に厳しい結果の項目で改善されている。</p> <p>今後も課題を教職員全員が認識・共有することで改善に向けてどう取り組むかが重要である。</p> <p>①各教科と各分掌、学年団単位で分析・検討をし、全体会で改善に向けて</p>																												

府立今宮工科高等学校

<p>の具体策を提示する。 ②授業アンケートの結果より分析を行い授業改善をより推進する。</p>	<p>○4系合同課題研究発表会（審査講評：教育委員会、企業、PTA、学校協議会、大学） 機械・電気・建築・グラフィックの各4系代表の3年生が課題研究で考え、制作した作品について1・2年生に発表をおこない審査委員として講評をしていただいた。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価 1/30 現在

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	<p>(1) 基礎・基本の定着と表現力・活用能力・課題解決能力及び自立心の育成 ア 公開授業と授業アンケートを活用した授業改善 イ 表現力と課題解決能力の支援と部活動の活性化をおこなう。</p> <p>(2) 専門性の深化と高等教育機関への接続 ア 進学クラス設置に向けてPTを編成する。</p>	<p>ア基礎・基本の定着を図り、活用力が身に付けられるよう、教科指導の充実に努める。 ※教職員全員の協力で授業規律を図る。 ※授業アンケート、学校教育自己診断の結果を基に担当首席を中心に研修会を実施して授業改善を推進する。 ※公開授業（6月）と研究授業の拡充</p> <p>イ課題研究の充実を進め、課題解決力や表現力を培う。 ※全系合同課題研究成果発表会を実施する。 ※部活動や生徒自治会活動の充実を進め、工高生活を活気あるものにする。</p> <p>ア進学希望生徒に対応したクラス設置に向けてのプロジェクトチームで教育課程等具体案を策定する。 イ大学との連携を深め、高大連携授業を取り入れる。</p>	<p>ア・成績不振者の減 ・学校満足度60%以上にする。 ・授業アンケートと学校教育自己診断の結果を踏まえ課題を明確にし、解決を図る。 ・全教員が年2回以上の授業見学をおこなう。</p> <p>イ・4系合同の課題研究発表会を開催して1・2年生に意識付けする。 ・生徒会の活性化を図り部活動加入率を60%以上にする。</p> <p>ア 平成26年度からの開講をめざし、内容を具体的に示す。 イ・全専門系4系で高大連携授業をおこなう。 ウ 実力考査の標準化を実施する。</p>	<p>ア・途中退学生が-43%減少7名→4名(◎) ・原級留置生が-7.7%減少26名→24名(○) ・学校満足度66.3%→72.1%。(◎) ・授業アンケートは、全教員・全科目を2回実施、教職員の授業力向上に繋がった。(○) ・研究授業、公開授業を実施したが、全教職員の年2回公開授業はできなかった。(△)</p> <p>イ・3月3日(月)に1年、2年生の学年末考査終了後、体育館で各系代表の3年生による課題研究発表会を大学、PTA、企業、中学校関係者を招いて実施する。(◎) ・生徒会、部顧問、担任、各クラブが協力して部活動の活性化に取り組んだこと。また、クラブ紹介なども工夫を凝らしたことで部活動加入率52.7%となった。(○)</p> <p>ア・プロジェクトチームを発足し、具体的なカリキュラムを作成できた。在阪の理工系大学5校とも連携の具体的な企画ができた。(◎) イ・2系で大学との連携授業を実施できた。(○) ウ・平成26年度から業者テストを全校的に導入し、客観性を図ることを決定した。(◎) ○ 初めての試みで、1年生280名全員が社会見学で企業5社と大学6校を訪問見学。(◎)</p>
2 規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	<p>(1) 3年間を通した系統的、継続的なキャリア教育・進路指導を進め、生徒の進路実現を目指す ア インターンシップ、企業実習、外部講師招聘、職業資格（技能検定）の取得等を推進するとともに、その取組成果を発表する。</p>	<p>ア5月より教職員全員での企業訪問を行い、求人情報等を収集する。 ○「実践的キャリア・職業教育支援事業」を活用し、1年生から職業教育の充実を図り、2年生でのインターシップ、3年生での企業実習等の充実拡大を図る。 ○卒業生との連携による進路指導の充実。 ○学校協議会より提言のあった社会人としてのマナーをより一層身につけさせるための指導を教育活動の中で実施する。 ○卒業生の状況調査 卒業生の離職率や進学した生徒の状況を調査分析して校内の教育進路指導に活用する。 ○電気工事士、機械系技能検定の講習会を充実する。また、他の資格取得に向けて組織を改編する。 ○基本的生活習慣をより一層定着させる。</p>	<p>○ 企業訪問100社 ○ 学校協議会提言の集団面接を実施して第1次就職内定率を75%以上にする。 ○ インターンシップ、企業実習参加生徒数400名以上 ○ 就職・進学とともに進路決定率を100%にする ○ 卒業後の状況をデータ化し分析公開する。 ○ 校内実力テストの見直しと業者テストの活用 ○ ジュニアマイスター顕彰取得者5名以上 ○ おはよう運動を強化し遅刻の減少を図る。</p>	<p>ア・3年担任、進路指導部を中心に全教員に企業訪問を呼びかけ実施したが、訪問できた企業数は72社に止まった。しかし、実施したことで多くの求人情報を得ることができ、昨年を上回る460社から求人を得た。来年度は、より計画的、戦略的に取組みたい。(○) ・インターンシップ等企業連携参加生徒累計440名で企業との共同開発もできた。(◎) ・面接など事前指導が不十分で、第1次就職内定率66%と前年比-5%であった。(△) ・現在100%の就職内定(188/188)(◎) ・進学者も現役合格98%を実現している。 ・大学進学者114名へのアンケート調査結果では専門教科は良いが、英数理の教養科目で苦勞している様子が伺える。今後の課題(◎) ・就職者120名の企業200社へのアンケート調査では、全体に離職率が低い結果となった。反面、離職率が非常に高い企業も判明した。この結果を進路指導に活用した。(◎) ・校内実力テストにSPIを使用(◎) ・ジュニアマイスター顕彰受賞2名(△) ・朝の校門指導で遅刻-10.0%2930回(◎) ・問題行動による懲戒件数-27%22件→17件(◎)</p>

府立今宮工科高等学校

3 地域連携と安全で安心な学校作り	(1) 専門高校としての特色ある教育内容を、広く府民に情報発信し、生徒が誇りをもって学べる環境づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携（地域貢献、出前授業、ものづくり教室等）や中学校連携（生徒・教員訪問や進路広報等）を推進する。 ○ ホームページの充実、各種媒体による広報活動等により本校の教育実践を広く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校教員向けの工科高校説明会を開催して理解を深めてもらう。 ○ 1年生徒の出身中学校訪問 70 校以上 ○ 教職員の中学校訪問 200 校以上 ○ 出前授業 2 校以上 ○ ものづくり教室 2 回 ○ 学校説明会 5 回以上 ○ ホームページの改定し、更新数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 87 名が今工での高校生活を報告するため母校の中学校 46 校を訪問した。(◎) ・教職員で 172 校の中学校を訪問+40 校 (○) ・出前授業実施 1 校 (○) ・ものづくり教室実施 1 回 (○) ・地域合同や今工単独で合計 33 回の説明会を実施または参加して延べ 731 名の中学生に今工を説明することができた。+187 名 (◎) ・重要なことについてかなりの更新ができた。さらに広報ツールとして活用できるようにする。(○)
4 学校運営体制の確立と教職員の教 育力向上	(1) 研修や研究授業を進め、中堅教員の育成を図る。 ア 学年組織や学級担任と教科の連携を強化し、きめ細かな生徒への学習・キャリア指導を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実態に即した校内内規に再編成をし、校内運営の円滑化を図る。 ○ 学校組織の再編を検討し、平成 25 年度より円滑な学校運営が行える組織にする。 ○ 新任教員及び 2 年目、3 年目教員での校内研修会を年 5 回実施する。 ○ 情報の共有化を図るために ICT 機器の活用講習会を 2 回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内内規の全面的な見直し案を 10 月までに作成し 26 年度より施行する。 ○ 各種委員会のスクラップ & ビルトを一層推進する。 ○ 系統的・計画的な校内研修を実施し、冊子を作成する。 ○ 学校説明会を想定し、教員のプレゼンテーション会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内規の部分的見直しはできたが、全面見直しには至らなかった。次年度に向け計画案を作成する。(○) ・学校全体の組織から考えたスクラップができなかった。(△) ・若手教員の育成を目的に研修会を計画したが十分なことができなかった。来年度は十分に計画をして実施したい。(○) ・大学進学専科の中学向けプレゼンを職員会議で実施し、ポイントを伝える。来年度は、内容を更に検討の上、実施する。(○)